

わたしの祭語りepi. 2

松澤克矢

第42回～事務局長



おまんた祭りとは…

一年に一度、糸魚川が一番にぎわう場である



## お祭り期間中はどのような活動をされていますか？



おまんだ祭り開催に向けて、各事務手続き、各連絡調整、資金調達や管理、時には自らイベントの企画立案や準備実行に携わると、何でも屋として、第42回のお祭りより、ほぼおまんだ祭り事務局に常勤で勤めさせて頂いております。

祭り開催までには多くの打合せや会議があり、日々資料の作成や連絡調整・説明等に追われています。中でも最高決定機関である理事会・総会では矢面に立たされることもしばしば。口下手なので答弁はいつも原稿をつくって忍ばせていますが時に想定外のことを聞かれると毎回あたふたしています。それでも自分事としてこれだけ多く祭り全般に携わっているのも、無事に終わると苦労も忘れ、この上ない解放感と充実感に満たされます。



## 過去のおまんだ祭りの思い出を教えてください。



幼い頃、祖母に手を引かれ、祭りに連れていってもらいました。まちなかは昼間から祭り独特の雰囲気が出されていて、提灯や祭飾り、法被浴衣姿、遠くで祭りの太鼓や笛の音が聞こえる…幼い私は心ワクワク躍らせていたように思います。縁日でかき氷やおもちゃを買ってもらい、すくった金魚や水風船を手にはぶら下げ、にぎやかな商店街の一角へ出ると、市民流しで踊っている父・母が通りを流れていく姿に手を振ったことを今でも覚えていています。お祭りの日に描いた絵日記は毎年内容がめちゃくちゃ充実していました。

初めて市民流しで踊ったのは高校生のときです。糸高サッカー一部で連を組んで参加しました。仲間と思いきり飛んで跳ねて右往左往して、時にはボールを蹴るマネをしたりと楽しい楽しい2時間でした。フォーメーションはバラバラでしたがチームワークは抜群に磨かれたと思います。



未来のおまんた祭りへメッセージをお願いします。

糸魚川おまんた祭りは、『市民総参加』『心と心のふれあい』『ふるさとまつりづくり』を信条として1975年（昭和50年）に立ち上げられました。『糸魚川を一つに！！』という熱き想いの下に、この祭りは決して中心市街地だけのものではないというところが、今なお愛され繋がれている所以のように思います。

一年に一度、糸魚川が一番にぎわう日であるおまんた祭り。大切な地域間の交流の場、そして大切な世代間の交流の場・・・この場を更に未来へと繋いでいく上で、郊外(西海地区)に住み、齢40歳を超えてもはや若くもなく中途半端な年代に差し掛かった私が中心で担わせて頂いていることに、意義とやりがいを感じ務めさせて頂いています。

皆様、おまんた祭りの『輪』と『和』を未来に繋ぎましょう！

## 松澤実行委員長

素敵な祭語りありがとうございました。

【語りを聞いて…】

幼いころの楽しい思い出が伝わってきました。一年に一度だからこそ、市民総参加で夏を、そして糸魚川を盛り上げるこのおまんた祭り。

これからも次世代を担う子供たちの絵日記が、おまんた祭りの思い出で満たされる、そんな夏の一日にしたいですね…。

好きなお方と西海詣り 願いをかけましょヨ

水俣観音 十一面の

顔がもちたや 手も欲しや…

おまんた囃子より